

助成：平成27年度文化庁文化芸術振興費補助金（トップレベルの舞台芸術創造事業）
文化庁 平成29年度文化芸術による子供の育成事業—巡回公演事業—採択作品

劇団 **風の子九州** 創立30周年記念作品

このゆびと〜まれ!



作・演出／あさのゆみこ
音楽・効果／曲尾友克
美術／山本佐助
小峯三奈
制作／仮屋祐一

絵／よしながこうたく

このゆび と〜まれ!

～あらすじ～

ヒロは、小学校4年生。仕事で帰りの遅いお母さんに代わって、近所のばあちゃんやじいちゃんに面倒をみてもらっています。ヒロの日課は、ばあちゃんの飼っている犬の散歩に出かけること。その散歩はヒロの大切な時間でした。そう、ヒロの大好きな空想の時間。あるときは洞窟探検、またあるときはヒーローヒロに大変身!

ある日、クラスで一番頭のいいマモルの様子がおかしいと思ったヒロは、マモルを空想の世界に誘います。喜ぶヒロに戸惑うマモル。さあこの二人、空想の世界でどうなっちゃうの?



あれ? マモル
どうしたのかな?

僕のくつは
汚れない...



みんなと
遊んだこと
ないから
わかんない...

何して遊ぶ?



台本ができるまで

今回、台本を書くにあたり小学校の先生方と、お芝居の主人公に近い年齢の男の子たちにインタビューをさせていただきました。先生方には、今回のテーマである学校で感じる格差のお話や、押しつぶされそうな現実に、一生懸命前を向いて歩こうとしている子どもたちのことなど聞かせていただきました。

子どもたちのインタビューはとても楽しいものでした。印象的だった事は、「もし、お母さんが悪役のボスだったら?」と質問したところ、3人そろって体をのけぞらせ、小さめの声で「えっ!」そしてあきらかに動揺し始めたのです。うれしそうに。これには大笑い。しかし、この後がすごい。「いや、でも、お母さんは僕のために怒ってくれたりするから」と、お母さんをかばい始めたのです。またまた、大笑い。両親との関係、とくに母親の存在の大きさが感じられました。小学4年生でこんなに考え、わかっているのだと本当に驚かされました。

こうしてたくさんの情報やアイデアをいただき、「このゆびと〜まれ!」を書き上げることができました。ご協力いただいた先生、子どもたち、本当にありがとうございました。

作・演出 あさのゆみこ

スエ子の
駄菓子屋は
いつもにぎやか
♪♪♪



子どもたちの遊びの中にわきおこる想像力 それはまさに生きる力!

いざ、無限島へ出発だ!
あっ!あれは、コンドルン!?
空想珠を取り戻せ!



ナ、ナンダ...!
あの怪物は~!!



みつけた!ぼくの空想珠!

上演にあたって

子どもたちは、空想の世界を遊ぶことや、冒険が大好きです! 時には空を飛んだり、悪者を倒すヒーローになったり、お姫様になったり、海を自由に航海したり...

子どもたちのイマジネーションは無限です。かつて私たち大人が子どもだった頃と同じように...

子どもたちは、現実と空想を行ったり来たりしながらゆっくと成長していきます。友達と空想をめぐらしながら遊び、より楽しく遊ぶためにルールを作りながら相手とのコミュニケーションを一生懸命計ろうとします。その事は、自分を知り、他人を理解する事にもつながり、人間形成の上でも大きな影響をもたらしていくのだと思います。しかし、現代の子どもたちにおいて、想像や空想をめぐらす空間やその時間に浸る機会は、どれだけ保障されているのでしょうか?

このお芝居は、主人公ヒロの空想力が大活躍します。観ている子どもたちも主人公と一緒に空想の世界を思いっきり遊び、明日への希望に胸を膨らませてもらえたらと思います。

■表紙の絵 よしなが こうたく

福岡在住の絵本作家。代表作に『給食番長』(好学社)、『ほくだってウルトラマン』(講談社)などがある。

PVはこちらから!



劇団に届いた子どもたち・先生からの感想

子どもたち

- ・ヒロのあそんでいるところがたのしそうでした。わたしもヒロとあそびたいとおもいました。わたしもくろうそうだまがほしいとおもいました。(1年 女子)
- ・こんなおもしろかったとはおもいませんでした。ついむ中になってしまって体そうずわりがくずれておかあさんずわりになってしまって先生に注意されました。(2年 男子)
- ・ぼくは、すごく鉄がかわいかったと思います。ぼくはあの場面がかわるのがすきです。そうぞうのせかいはすごくおもしろかったです。まさかあのくろうそう玉がどろだんごだなんてしりませんでした。(3年 男子)
- ・おもしろかった場面は、いくつかあります。それは、みなさんが何かを言ったり、空想玉をとりにいったり、ひろの家でこけたりする場面がおもしろかったです。戦争の話に変わったとき、「戦争はぜったいしたくないな、食べ物こそまつにしたらいけないな」と思いました。(5年 女子)
- ・修学旅行準備中で少しかけていたけれどそのつかれがふきとぶくらいの楽しい思い出となりました。一度入ったらもう抜けられないような劇の世界観がすごくおもしろくて、笑すぎて、前の席にすわっていた5年生に「もう少し静かにして」と注意を受けたくらい腹をかかえて笑いました。(6年 男子)
- ・私が一番おもしろいな~と思ったのは、ヒロの性格です。たくさん笑っていたり、自分の世界にどんどん入っていったりするのは、すごくおもしろかったです。犬の鉄も、リアルでかわいかったです。ステージがどくとくで、次から次へと本のページをめくるように変わっていくのが見ていてびっくりしました。(6年 女子)

先生

- ・事前にリーフレットやDVDは、いただいておりますが、やはり「百聞は一見にしかず」で、作品の魅力は、ストーリー、演じる方のパワー、舞台の設定、場面移動へのどれもこれもこれが全校児童と職員を惹きつけるものでした。終了後、子どもたちから「めちゃくちゃたのしかった」と声をかけられました。
- ・子どもの心理をつかまれ、楽しく面白く想像力豊かな物語でした。特に、海賊ごっこでまもるが変わっていく姿、その影響を与えるヒロのつながりがよかったし、お母さんがたをも変えていく強い心をもつようになったまもるに、未来を感じました。
- ・舞台装置の転換・笑いの要素・感動のシーン・心に訴える効果など、本当に魅力溢れる舞台でした。最高でした!

子どものいるところどこへでもとんでいく

おかげさまで
2015年 4月
30周年を
むかえました!!



KazenokoBus™

劇団紹介

劇団風の子九州は、1985年劇団風の子より独立して誕生した、九州の福岡に本拠地を置く児童青少年演劇の専門職業劇団です。“子どものいるところ、どこへでもとんでいく”を合言葉に、九州・沖縄各地の街中や山間部の集落、点在する離島を駆け回ってきました。

90年からは国内だけでなく、韓国・中国・インドネシア・パキスタン・インド・オーストラリアなど、アジアを中心に海外公演にも出かけ、多くの人たちとの交流を深めてきています。

2002年からは、韓国の劇団サダリとの合同公演『マンナム』を創り上演してきました。アシテジ（国際児童青少年演劇協会）の国際フェスティバルinソウルでは日本代表としても参加しました。

2015年には、劇団創立30周年を迎えることができました。これからも地域で、“子どもたちと共に未来を創る劇団”として、従来の演劇様式にこだわらず、遊びや日常生活の中から、新しい創造と表現の世界を追求し広げていきたいと思っています。

◆日本児童・青少年演劇劇団協同組合加盟 ◆全国児童・青少年演劇協議会加盟 ◆アシテジ（国際児童青少年演劇協会）加盟



〒814-0002 福岡市早良区西新5丁目5-13
TEL 092-841-7889 FAX 092-841-7896
<http://www.kazenoko-kyushu.or.jp>
E-mail: info@kazenoko-kyushu.or.jp